

# ● 棒使い・鼈摺り・幣追い

獅子舞の狂いの前座には、必ず棒使いの舞が披露されます。

まだ幼い男子だが、あと数年で、獅子舞を狂う、たくましい男子に成長します。

棒使いの目線からすれば、獅子狂いをする大きなお兄ちゃん、あこがれの存在となります。そんな幼少期に獅子舞役者の棒使いの作法は、とても良い人生経験になることでしょう。



▲最後は、かっこよくハイ！ ポーズ



▲長時間、行儀のよい棒使い

## 演目「雌獅子隠し」

3匹獅子は雄獅子が2頭、雌獅子が1頭です。

つまり、何気に雄は雌を意識している物語になります。

3頭の獅子は擬人化された架空の生き物ですが、そこに人間的な心情と命の生き様を民族芸能として表現しています。

あるとき雌獅子が、どこかに隠れてしまいます。

そうすると、雄獅子は、それは心配で気になるわけです。

隠れてしまった雌獅子をおろおろと探し始める雄獅子2頭に、ひょっとこ面をかぶった、へいおい(道化)は獅子をからかいますが、獅子に逆襲され、へいおいが、腰を抜かしたり転がって、おどける仕草に境内では笑いがこぼれました。

熊野神社総代・獅子舞保存会は後継者の育成に取り組んでいます。毎年2月末には、春祈禱の稽古が熊野神社社務所で始まり、指導が始まります。

小学生児童、中学・高校生、社会人と役者の年齢は千差万別です。

稽古場で、熊野神社総代や支援者が見守るなかで、獅子舞保存会会長 植田育宏さん並びに保存会皆さんの熱心な指導が約2か月続きます。4月の初旬には、主催者、役者、支援者の懇親会があり、心一つに親睦のきずなを深めて、約2週間で稽古の仕上げにかかり、本番を迎えかえることとなります。

地域の皆様には今後とも、春祈禱のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(取材・写真 / 広報部会 幡垣 誠)

